



# FC GIFU

FC岐阜  
株式会社岐阜フットボールクラブ  
代表取締役社長

宮田博之氏

連載Vol. 44

## 様々な障がいのある方の雇用の促進

私たちの周りには病気や事故による障害のある方々で、働く意欲は持っていても、自分に向けた仕事か、自分に来る仕事かどうか不安に思っていて、踏み切れない方々が大勢いるのではないかと考えています。

岐阜市から指定を受けた障がいのある方の就労支援事業所があります。障がいのある方に企業の必要とする仕事を出来るように指導し、最終的には就労出来るように支援している企業です。誰でも初めは仕事を習うことから始めますので、事務所で集中してその仕事だけを習います。実際に就労するには、周囲のご理解の元で働くにしても、通勤もあれば一般的な社会とのコミュニケーションや雑多な経験も必要となり、様々な手ほどきやちょっとした配慮も必要になります。

この企業の社長様が弊社のスポンサー企業としてご関心を頂きました折に、その事業内容をお聞きした瞬間に、スタジアムでの弊社の興行事業の中に、そうした障がいのある方の皆様の訓練に向けた仕事がたくさんあると確信し、是非お役に立てるようにコラボ(協働)することで話が盛り上がりました。

と言うのは、以前に障がいのある方だけを雇用して事業を行う特例子会社を設立し、4名のサポート役と25名の障がいのある方を雇用し、スムーズに軌道に乗せた経験があったからでした。

障がいのある方だけで仕事の一部を行う訳ですが、大事なことはそれだけで終わるのではなく、慣れてくれば健常者の従業員やお客様に仕事のプロセスを見せて、接して、会話をする機会を増やすことです。そこが障がいのある方にとって一番の生き甲斐になり、そうすることで従業員の障がいのある方に対する意識も変わり、スムーズな対応が出来るようになるのです。

さて、外から見て障がいがある方と分からない方と、比較的軽い障がいのある方にとって一番困るのは、健常者と見られてしまうことです。そこでスタジアムでは訓練ですので、ピアサポートと胸と背中に表示したピブスを着て、まずは単純な仕事についてもらいます。

Peer support の意味は「同じような立場の人によるサポート」「仲間によるサポート」であり、ピブスをつけることで自分が障がいのある方であると表明するとともに各種ブースにて、他の障がいのある方々にもお困りのことを教えることが仕事となります。

その他にも不特定多数の人たちと接する非常に良い機会であり、突然予期しないことをたずねられたり話しかけられたり、多くの人と接することになります。月に2~3回のホームゲームの6~7千人の観客がいる時の経験ですが、恐らく予期しないことの連続で非常に良い経験になるはずです。

そして自分が職についた時に、こうした経験を通じて、状況や人が変わっても環境に溶け込んで、仕事が出来るようになって行きます。

この小さな、しかし重要な事業にご理解を示して下さるスポンサー企業も現れましたので、9月からスタジアムで障がいのある方の自立への支援を目指して就労支援事業所とスポンサー企業と弊社の3社と一緒にスクラムを組んで参りますのでよろしくお願いたします。

そして、次のステップとしてこの障がいのある方々の方々が、ここから巣立って、他の企業の職場で仕事に就いて自立して行くのです。

ご来場の皆様方も是非暖かく見守って下さるようによろしくお願申し上げます。